

橋梁点検業務 特記仕様書

1 適用

本特記仕様書は、「橋梁定期点検業務」（以下、「本業務」という。）に適用する。

本特記仕様書に記載していない事項については、「設計業務等共通仕様書（広島県）」（以下、「共通仕様書」という。）によるものとする。

2 適用の範囲

本業務の適用の範囲は次のとおりとする。

- （１）神石高原町が管理する橋梁とする。
- （２）本業務は広島県橋梁定期点検要領（令和３年４月 広島県道路整備課）（以下、「定期点検要領」という。）（及び令和６年度に改訂を含む）に基づき実施する定期点検業務に適用する。

3 定期点検要領の改訂について

定期点検の技術的助言として国土交通省が公表している道路橋定期点検要領（平成３１年２月）の改訂（以下、「技術的助言」という）が予定されており、これに合わせて当県の定期点検要領も令和６年度中に改訂する予定である。

改訂では、これまで各部材ごとに記録していた診断所見等の様式変更を中心に行い、健全性を判定するに至る記録を明確に残すことを目的に行うことを想定している。

定期点検要領の改訂スケジュールは次のとおりとする。

表１ 定期点検改訂スケジュール（案）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
定期点検要領（暫定版）							
取り纏めデータファイル更新							
定期点検要領改訂							

スケジュール（案）は、技術的助言が令和６年３月末に公表されることを想定している。

4 管理技術者

管理技術者は、共通仕様書第 1107 条の定めのほか、技術士および RCCM については次に定める要件のいずれかを満たす者とする。

- （１）技術士（総合技術監理部門：建設部門関連科目、又は、建設部門）
- （２）RCCM（道路又は鋼構造及びコンクリート）

5 業務計画書

受注者は、契約後速やかに点検の実施体制を整えて、必要な資料の収集、現地踏査計画を検討し、共通仕様書第 1112 条に基づき、業務計画書を作成し、調査職員と協議了承後に提出するものとする。

なお、共通仕様書第 1112 条の事項に加え、次の事項を記載するものとする。

- (1) 安全管理計画
- (2) 関連資料貸与請求一覧表

ただし、現地踏査の結果等により、内容に変更が生じた場合は、変更業務計画書を提出するものとする。

6 使用図書

本業務で使用する図書は、共通仕様書に定める適用仕様書・指針等のほか、次に示すものとする。

- (1) 定期点検要領

7 作業区分

本業務の作業区分は次によるものとする。

- (1) 作業区分 昼間作業
- (2) 施工区分 現場作業及び内業

ただし、現場条件等により作業区分に変更を要する場合は、調査職員と協議するものとする。

8 点検計画準備

点検に先立って、発注者から指定された本業務の対象となる施設についての資料収集及び点検計画を考案する。

なお、施設の状況（現地の交通状況、点検に伴う交通規制の必要、現地調査不可能等）により点検作業が出来ないと考えられる場合には、調査職員と協議するものとする。

9 実施計画書作成

受注者は、作業上必要な資料収集をした上、実施計画書を作成し、調査職員に提出するものとする。実施計画書には次の事項を記載するものとする。

- (1) 対象位置図
- (2) 業務実施方針（点検方法）
- (3) 実施体制
- (4) 実施工程表

- (5) 安全管理計画（交通規制を含む）
- (6) その他調査職員が必要と認めたもの

なお、5 業務計画書と重複する場合は、それを省略できる。

10 点検に係る班編制および資格要件

点検の班編制は、3名（点検技術者、点検員、点検補助員）で編成することを基本とし、健全性の診断（部材単位の診断）において適切な評価を行うために、点検を行う者は施設の構造や部材の状態の評価に必要な知識および技能を有することが必要であるため、次の通りとする。

なお、点検を行う者の資格要件は別紙「資格要件に関する調書」で提出すること。

(1) 点検技術者

次の要件を有するものとする。

- ・ 橋梁の診断に関する相応の資格^{※1}

※1：橋梁の診断に関する相応の資格については次に掲げる資格のいずれかとする。

- ①技術士（総合技術監理部門：建設部門関連科目、又は、建設部門）
- ②RCCM（道路又は鋼構造及びコンクリート）
- ③「国土交通省登録技術者資格」（施設分野：橋梁（鋼橋）-業務：診断）、
又は、（施設分野：橋梁（コンクリート橋）-業務：診断）

(2) 点検員

次の要件を有するものとする。ただし、点検技術者が次の要件を有する場合は、点検員に次の要件を求めない。

- ・ 橋梁の点検に関する相応の資格^{※2}または相当の実務経験^{※3}

※2：橋梁の点検に関する相応の資格については次に掲げる資格のいずれかとする。

- ①技術士（総合技術監理部門：建設部門関連科目、又は、建設部門）
- ②RCCM（道路又は鋼構造及びコンクリート）
- ③「国土交通省登録技術者資格」（施設分野：橋梁（鋼橋）-業務：点検）、
又は、（施設分野：橋梁（コンクリート橋）-業務：点検）

※3：実務経験については、広島県の点検要領に基づく点検の実務経験を有する者とする。

(3) 点検補助員

要件は特になし

1 1 現場点検

現場点検に際しては、次の項目に留意するものとする。

(1) 調査職員等の立会い

受注者のみの点検時に、点検方法等で判断を迷う事態が生じた場合は、調査職員等の立会いを求め、その指導等に従い点検を行うものとする。

(2) 緊急対応が必要と判断される場合は、直ちに調査職員に報告するものとする。

1 2 点検結果取りまとめ

(1) 点検評価

技術的助言の変更に伴い、診断所見の記載内容は、について次の事項を想定している。参考とする様式1～3は、今後本県の記録様式を改訂する際に考慮する予定である。

- ① 力学的機能に基づく機能毎の部材群^{※1)}に想定する状況^{※2)}が生じた際の安全性の状況^{※3)}について評価様式(様式1、2)
- ② 維持管理する上で特別な取り扱いが必要となる可能性がある事象^{※4)}について記録する様式(様式3)

※1) 上部構造・下部構造・上下部接続部・その他(フュールセーフ、伸縮装置)

※2) ・活荷重：普段、通らないような大型車の通行時や、大型車の連行

- ・地震：しばしば生じるような地震よりも大きな地震(L1を超える地震)
- ・豪雨や出水：しばしば生じるような豪雨や出水よりも大きな豪雨や出水(稀に生じる大規模なもの)
- ・その他

※3) A:B、C以外

B:致命的な状態とならない程度の変状が生じる可能性がある。

C:致命的な状態となる可能性がある。

※4) 疲労、飛来塩分による塩害、ASR、防食機能の低下、洗堀、その他

なお、国からの参考となる事例等の情報は、適宜、共有される予定である。本仕様書は、現時点(2024年3月末)のもので、業務期間中に改めて提供する予定である。

(2) 点検データファイル(Access)

点検結果を、別途貸与する点検データファイル(Access)に入力することにより、データ作成を行うものとする。

なお、定期点検要領の改訂に伴う様式の変更については、契約後に貸与される「点検データファイル(Access)」に修正パッチファイルにより行うことを予定しており、修正パッチファイルの提供は、「表 1 定期点検改訂スケジュール（案）」による。

1 3 再委託の禁止

共通仕様書第 1128 条第 1 項で示すほか、次に示すものとする。

- (1) 本業務の計画準備
- (2) 点検計画準備
- (3) 実施計画書作成
- (4) 現場点検
- (5) 損傷程度の評価
- (6) 報告書作成

1 4 成果品資料作成

本業務の成果品は、共通仕様書第 1117 条第 1 項で示すほか、次に示すものとする。

- (1) 点検調書の電子データ
- (2) その他調査職員の指示した資料

1 5 貸与資料

共通仕様書に定める委託者が貸与する図書その他資料は次のとおりとする。

- (1) 既存点検資料

その他業務履行上必要な発注者の所有する資料について貸与するものとする。

1 6 その他

- (1) 本業務は、情報共有システムの対象とする。
- (2) 本業務の点検結果（点検調書）は、公表の対象となるため、点検者名は管理技術者とする。
- (3) 健全度判定Ⅳと判断する場合は、必ず発注者と協議をすること。
- (4) 本業務は新技術の活用を検討すること。

参考【様式1】

別紙2 様式1様式2様式3

様式1

橋梁名・所在地・管理者名等

新様式20240126時点版

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	経度	
(フリガナ)						
管理者名	路下条件	代替路の有無	自導線or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	

道路橋毎の健全性の診断

各示に基づく健全性の診断結果の区分

橋梁諸元

架設年度	橋長	幅員	橋梁形式

※架設年度が不明の場合は「不明」と記入すること。

技術的な評価結果

定期点検実施年月日	定期点検者	(株)○○ △△		
想定する状況	活荷重	地震	豪雨・出水	その他
橋(全体として)				() -
上部構造	写真番号 1	写真番号 1	写真番号	() - 写真番号
下部構造	写真番号 2	写真番号 2	写真番号 4	() - 写真番号
上下部接続部	写真番号 3	写真番号 3	写真番号	() - 写真番号
その他(フェールセーフ)	写真番号	写真番号	写真番号	() - 写真番号
その他(伸縮装置)	写真番号	写真番号	写真番号	() - 写真番号

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

起点



終点

参考【様式2】

別紙2 様式1様式2様式3

様式2

状況写真(様式1に対応する状態の記録)

新様式20240126時点版

○上部構造、下部構造、上下部接続部、その他について技術的な評価の根拠となる写真を添付すること。

施設ID	0	定期点検実施年月日	0	定期点検者	(株)○○ △△						
上部構造	想定する状況	1. 活荷重	部材群の状態	3. 荷重支持機能(鉛直)が低下	下部構造	想定する状況	2. 地震	部材群の状態	9. 位置保持機能(鉛直)が低下		
写真番号	1	径間	1	部材番号	Mg01	写真番号	1	径間	1	部材番号	P02
備考	(適宜、特記事項など)					備考	(適宜、特記事項など)				
上下部接続部	想定する状況	1. 活荷重	部材群の状態	3. 荷重支持機能(鉛直)が低下	下部構造	想定する状況	2. 地震	部材群の状態	9. 位置保持機能(鉛直)が低下		
写真番号	3	径間	1	部材番号	B01	写真番号	4	径間	1	部材番号	F01
備考	(適宜、特記事項など)					備考	(適宜、特記事項など)				

参考【様式3】

別紙2 様式1様式2様式3

様式3

特定事象の有無、健全性の診断に関する所見

新様式20240126時点版

	施設ID	0		定期点検実施年月日		0		定期点検者	(株)〇〇 △△
該当部位	特定事象の有無 (有もしくは無)						健全性の診断の前提 (近接目視をできた範囲など)	特記事項 (現地での応急措置など)	
	疲労	飛来塩分による塩害	ASR	防食機能の低下	洗掘	その他			
上部構造									
下部構造									
上下部接続部									
その他(フェールセーフ)									
その他(伸縮装置)									
所見	(適宜、所見を記入)								